

## 令和6年度 認定こども園 たから幼稚園 自己評価結果の報告

本園では、年2回（7月・2月）「教育・保育の自己評価」を、下表にあるような合計71の視点から行っています。その結果のまとめについて、下記の通り公表いたします。

この評価結果を踏まえ、今後もよりよい教育・保育が提供できるよう努めてまいります。

（令和7年3月31日 認定こども園 たから幼稚園）

〈評価の方法〉 1点：たいへんよい 2点：よい 3点：一部検討を要する 4点：改善を要する

項目	内 容	評点	評価と課題
保育・教育理念と目標	① 保育・教育理念「ひとりひとりを尊重する」ことを意識して、毎日実践している ② 「安心して健やかに生活できる環境を整えます。」 ③ 「信頼関係を築くことで、情緒の安定を図ります。」 ④ 「一日の中に絵本の読み聞かせの時間を位置付けています。」 ⑤ 「豊かな遊びの中で育ちあい、自信や意欲、主体性を育みます。」 ⑥ 「生活する中で見通しを持ち、自分で考え、行動できる力を育みます。」	1.86 2.00 （上段：7月 下段：2月）	子ども一人ひとりの性格、姿、成長過程に合わせて関わることを大切にしてきました。
学年の重点	① 0歳児：生理的欲求を満たし生活リズムが整う 特定の大人との信頼関係を育み、情緒の安定を図る ② 1歳児：行動範囲を広げ探索活動を盛んにする ③ 2歳児：象徴機能（言葉、ふり、見立て、ごっこ）や想像力を広げながら生き生きと遊ぶ ④ 3歳児：身近な保育者や友達と色々な環境に関わる中で、自分のしたい遊びを見つけ、十分に遊ぶ ⑤ 4歳児：友達との信頼関係を深め、色々な経験を通して自分なりに感情を表現する ⑥ 5歳児：豊かな遊びの中で友達と共に育ちあい、意欲的、主体的に活動に取り組む	1.74 1.72	友達との関わり合いや探索行動を含め行動範囲を広めることなど、経験を深めることに意を注いだ。 支援や援助の仕方を更に深めていきたい。
保育・教育、保護者との関係	① 月案・週案は子どもの実態に即して適切に立案している・されている ② 時程は、子どもの実態に見合ったものである ③ 環境構成を意識した指導の方法や過程を常に工夫している ④ 行事は、子どもの発達段階に応じて、無理のない計画・内容になっている ⑤ 一人ひとりの子どもの発達について見通しをもって保育している ⑥ 子ども一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れるようにしている ⑦ 評価（反省）、資料を集積している ⑧ 評価結果をもとに、指導の改善に努めている ⑨ 子どもとの温かなやりとりやスキンシップを常に心がけている ⑩ 子どもの話をよく聞くようにしている ⑪ 個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳・電話などを使ったりして共有している ⑫ 子どもや保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている ⑬ 所謂「不適切保育」や虐待とは無縁の保育を実践している	1.94 2.01	日常から子どもの姿の保護者との伝え合いも意識でき、全体として温かい保育ができています。ありのままの気持ち、子どもの目線を大切に、より実態に即した保育計画の立案が課題。
特別支援教育	① 特別なニーズを持つ子どもへ、適切な支援がなされている・している ② 特別なニーズを持つ子どもの保育について、定期的に話し合う機会を持つなど、子どもに合わせた個別の支援計画を立てている ③ すべての子どもが、お互いの良さを感じ取るように保育の配慮をしている ④ ユニバーサルデザインの考え方をもち、保育環境を整えている ⑤ 療育・医療機関などの専門機関から、子どものスペシャルニーズについて必要に応じて助言を受けている ⑥ 保護者と子どもの具体的な姿を伝え合うことを通して、適切な関係を築こうとしている	212 2.14	家庭や外部機関との連携も進み、より適切な支援に少しずつ近づいている。更に、保育者間での情報共有や進むべき方向の議論の充実が必要だ。

園の組織・運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 保育・教育理念「ひとりひとりを尊重する」ことを常に意識して、園は運営されている・している</li> <li>② 能率的・合理的な運営組織になっている</li> <li>③ 自分の園務分担が、明確に理解できている</li> <li>④ 全体の職務内容が明確で、協働できる体制になっている</li> <li>⑤ 職員の配置は、適材適所である</li> <li>⑥ 職員一人ひとりの立場が理解されて、シフトが組まれている</li> <li>⑦ 園長など管理的職員は、職員の立場や考えを受け止めている</li> <li>⑧ 職員一人ひとりの気持ちが、互いによく理解されている・している</li> <li>⑨ 職員間の報告・連絡・相談が確実になされている・している</li> <li>⑩ 会議（職員会、学年会や主任会など）を適切かつ効率的に進めている</li> <li>⑪ 打ち合わせの回数、時間、内容は適切である</li> <li>⑫ ひとの意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べたりすることができる</li> </ul>	2.08 2.13	職員の良い関係の中で業務が進められ、より時間を意識できるようになっている。会議や話し合い、職員間での相談などに、どのように今以上の時間を確保するかが課題。
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 幼児や教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている</li> <li>② 社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている</li> <li>③ 適切な研修の機会が与えられている</li> <li>④ 研修の内容や回数は適当である</li> <li>⑤ 自らの判断で、園の内外での研修・研究活動に積極的に参加している</li> <li>⑥ 毎日の実践の中で課題を見つけ、その課題の解決のために計画的に自己研鑽に努めている</li> <li>⑦ 研修の成果を日常の保育に生かし、子どもの育ちに反映させている</li> </ul>	1.88 2.23	他園の見学など、研修機会が適切に設けられている。自ら進んで研修する意識を一層育て、保育力量の向上に努める。
給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 子どもの体調に応じ食事の量を調整している</li> <li>② その日の昼食の食べ具合などを必要に応じて保護者に知らせている</li> <li>③ 子どもが楽しく食べることができるよう、食育の計画を作成している</li> <li>④ 食物アレルギーのある子どもに対して、園医やかかりつけ医と連携して除去食を取り入れるなどの配慮をしている</li> </ul>	1.83 1.99	おいしい給食が提供できている。コドモンなどで朝食の食べ具合が知れ、配膳量の調整でき、子どもの実態に合わせて給食が提供できた。
情報管理と 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個人（園児、職員）に関わる情報は、適切に扱われ、管理されている</li> <li>② 内容、回数など、コドモンでの情報発信の仕方が適切である</li> <li>③ ホームページが、園の情報提供手段として活用されている</li> <li>④ 園だよりや学級だよりで、園や学級の様子などの情報を適切に伝えている</li> </ul>	1.83 1.96	インスタなど情報発信の手段が充実してきた。写真を多用した情報発信は有効だと感じている。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 園は子育てに関する情報を積極的に発信している</li> <li>② 園は子育てに関する相談を積極的に受け付けている</li> <li>③ 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定している</li> <li>④ 地域の子育てセンターとして、園庭、保育室等を開放している</li> <li>⑤ 地域に開かれた園づくりができています</li> </ul>	1.98 2.12	子育て支援の内容が充実してきている。園庭開放を一層充実したい。
環境美化・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 清掃や壁面づくり、花を飾るなど、環境の美化・整備に努めている</li> <li>② 園舎・園庭の施設・設備の安全点検を計画的に行っている</li> <li>③ 遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管している</li> <li>④ 園での健康状態や出欠情報の管理は適切である</li> <li>⑤ 怪我や事故への対応の仕方を理解している</li> <li>⑥ 避難訓練を、計画に基づいて適切に実施している</li> <li>⑦ 不審者に対する周到な配慮を行っている</li> <li>⑧ 子どもの安全確保のため、家庭・地域・関係機関と連携を図っている</li> </ul>	1.89 2.11	専門家（看護師）の存在で、ケガ等への適切な対応ができています。掃除については課題が残ります。